

## 令和2年度第1回高知県地域医療構想調整会議（中央区域 嶺北部会）議事録

<日時> 令和3年1月22日（金）18：30～20：00

<場所> 土佐町保健福祉センター あじさいホール

<出席者>（地域医療構想調整会議（中央区域 嶺北部会）委員）

議長：古賀眞紀子

委員：佐野正幸、川井利香、吉村典子、上村明弘、山首尚子、川村龍象、尾澤逸子、神野理江、筒井京野、中平真司、田岡明、公文理賀、大石雅夫、岡崎美佐、矢野信子、北村和喜、近藤淳、朝倉理恵

（欠席：吉村典子、高石昌彦）

事務局：医療政策課 チーフ（地域医療担当）濱田文晴、主幹 原本将史

（中央東福祉保健所）所長 武田良二、地域包括ケア推進監 小野広明、保健監 田上豊資、次長 酒井美枝、衛生環境課長 岡林康夫、地域支援室長 山本貴子、チーフ（地域支援担当）窪田純子、チーフ（地域連携担当）毛利卓哉、主事 谷内志帆

### 1 開会

### 2 説明・協議事項

#### （1）高知県地域医療構想（中央区域 嶺北部会）に関する事項 地域医療構想調整会議部分

##### 【事務局説明（医療政策課）】

高知県の医療政策課の山川と申します。座って説明させていただきます。

資料の3と書いてある、令和2年度第1回地域医療構想調整会議の資料のほうをお願いいたします。

表紙から1枚めくっていただきまして、新しくいらっしゃっている委員の方々もいらっしゃいますので、少しそもそも論から説明のほうをさせていただきます。

当県は高知県地域医療構想につきましては、平成28年の12月に策定済みでして、団塊の世代の方が後期高齢者に移行する、令和7年における医療需要に合った医療提供体制を確保し、医療需要と患者さんの病態に応じた病床の必要量を推定していくと。下のほうにありますけれども、不足している機能は整備して、過剰気味な機能は転換を模索しつつ、可能な限り合意形成を目指していく。その手段といたしましては地域医療構想の調整会議、この本日のような場をお借りしているといったところです。合意できない場合は一応知事権限もあるにはあるんですが、強制力はないと。行政指導の病床の再編や病床削減の計画ではないといったところにご留意いただければと思います。

高知県の状況でございますけれども、人口が全国に15年先行して減少しているとか、高齢化率の上昇も全国に10年間先行しております。人口の約74%が中央医療圏に集中をしております、ほとんどの地域が中山間地域という位置づけです。医療需要につきましては、この中央以外の区域は高齢者数、医療需要とも今後は横ばいか、あるいは減少局面にあるといったところでございます。

医療支援については、人口当たりの病床数とか医師数、看護師数、ともに最高水準に数字の上ではあるんですが、医療資源が高知市とその周辺に一局集中をしております、地域間での偏在が非常に大

きいといったところでございます。特に病床数は全国1位ではありますけれども、地域で偏在があるといった状況でございます。

4ページ目をお願いします。後期高齢者入院患者数が2025年から2030年ごろにピークを迎えて、全年齢で見ると中央医療圏以外は今後横ばいか減少局面にあると。

5ページ目のところで病床の状況について書かせていただいております、一応、全国の平均値と比較してかなり多い水準にあります。下のグラフは療養病床数の推移ということになっておりまして、令和5年度末で廃止が決まっております介護療養病床が下の数値になっておりまして、だいたい2,000床を上回るような数字であったんですけども、今年度、介護療養病床の転換、介護医療院の転換を大きく進めていったところで、今年度当初で約410床で、年度途中でもかなり削減のほうが進んでおりますので、残り200程度ということになっておる状況でございます。

6ページ目、7ページ目をお願いします。6ページ目は割愛しまして7ページ目なんですけれども、高知県の地域医療構想の調整会議の体制といったところで、幡多区域、高幡区域、中央区域、安芸区域と、それぞれ二次医療圏ごとに調整会議を設けておりまして、中央区域は人口が多うございますので、4つの部会に分かれております。嶺北部会はその内の1つということになっております。この会議も2つ種類がございます、本日のような定例会議と、あとは病床機能の転換とか増床等の議題の場合は随時会議という医療関係者の、地域のお医者さん等をお招きして行う会議も、別途行っておるところでございます。

8ページ目をお願いします。地域医療構想調整会議のこれまでの開催状況といったところでまた確認のほういただければと思います。

10ページ目 11ページ目をお願いします。現在の病床の状況ということになっておりまして、県内でおしなべて急性期が非常に多くてかつ回復期が少なく、慢性期も多めな傾向にあったんですけども今年度当初に介護医療院への転換が大きく進んだといったところもあって、過剰となる程度は、やや減少しているといったところでございます。

12ページ目をお願いします。12ページ目は嶺北地域の転換の状況といったところで、地域内にある4つの医療機関の状況について記載させて頂いております、早明浦病院さんが、今年度当初から介護医療院への転換を100床行われたといったところでございます。

14ページ目をお願いします。14ページ目と15ページ目がですね、地域医療構想の達成に向けた支援策といったところで、様々な補助金について書かしております。

16ページ目、17ページ目をお願いします。16ページ目はこれまでの補助金の交付実績といったところでまた、後ほどご確認を頂ければと思います。17ページ目は公立公的医療機関の具体的対応方針の再検証といったところで昨年度からですね、3番にありますように、本県において5つの公立公的病院が名指しをされまして、もう一回対応方針を検証してください、といったところがあったんですけども、昨年度末から新型コロナの影響もあって、少し議論が止まっている状況でございます、今年度にはですね、4番にもありますように国のほうから議論の周期を少し延長するといったお知らせがあったところでございます。

次のページをお願いします。こちらのほうが、今年度厚生労働省から新しく示された補助制度でございます、新たな病床機能の再編支援といったところで、かいつまんで言いますと病床を減らした場合は、その減らした病床数に応じて補助を、お金をくださいます。ただ要件としては、回復期以外の病床を10%減らすでありますとか、あるいは介護医療院への転換なんかは対象にはならないといった要件もございまして、今年度県内で3つの医療機関のほうがこの補助金のほうを要望して頂いて、現在国と調整中といったところでございます。

また2枚めくって頂いて最後のページ、お願いします。こちらのほう参考といったところなんですけれども、今後の地域医療構想の動向というか、国の方が令和2年の12月15日に検討会を行った資料でございます。(1)の二つ目の白丸にありますけれども、今回のコロナのような、感染の拡大時の短期的な医療需要にも、基本的に各都道府県の医療計画に基づいて機動的に対応を行っていくことを前提に、地域医療構想についてはその基本的な枠組みを維持しつつ着実に取り組みを進めていくといった指針が示されておりますので、恐らくまた今年度末か、あるいは来年度に詳細な通知等が示されるのではないかと考えております。駆け足で恐縮ですが、説明は以上になります。よろしくお願いします。

**【古賀会長】**

ありがとうございました。

理解が難しかったかもしれないんですが、委員の皆様方、先ほどの説明で何かご質問ございますでしょうか。

特にちょっとにわかに質問難しいと思いますので、続きまして、日本一の長寿県構想・嶺北地域推進協議会に関する事項に移ります。

▲▲▲ (終了) ▲▲▲